

議員研修レポート

釜石市議会議長 千葉 榮 様

2026年8月26日
釜石市議会議員 村田信之

研修概要

令和8年度「第2回市町村長等・議会議員特別セミナー」

テーマ:政策議会の「質問力」

講師:土山希美枝さん(法政大学法学部政治学科教授)

1. 要旨

本研修では、法政大学教授・土山希美枝氏による「政策議会の『質問力』」をテーマとした講義を受講した。

講義では、一般質問を単なる議員個人の発言や政策提案の機会としてではなく、自治体の政策や制度をより良いものにするための議会の政策資源として捉える考え方が示された。

自治体は、地域を構成する人々にとって必要不可欠な政策や制度を整える主体であり、政策にはあらかじめ正解がない。だからこそ、多様な立場から議論し、最終的に意思決定する議会の役割が重要となる。その中で一般質問は、議員が地域や市民との接点から得た「気づき」を議会に持ち込み、行政の執行を監査し、政策を提案する重要な仕組みである。

議員となって3年余りの自分にとって、一般質問の技術だけでなく、「なぜ一般質問を行うのか」という根本から議会の役割を捉え直す機会となった。

2. キーポイント

第一は、一般質問を「事実・分析・主張」に整理することである。市民の声、現場、統計、過去の答弁などの「事実」を土台とし、それを合理的に「分析」した上で、根拠に見合った「主張」を組み立てる。特に、政策提案を急ぐのではなく、まず「問題が問題であること」を執行機関と共有する監査機能の重要性が印象に残った。

第二は、現場とデータの双方を持つことである。市民の課題の現場だけでなく、政策を執行する行政の現場にも「話をしに行くのではなく、話を聞きに行く」。その上で統計や行政資料、過去の議会答弁等を組み合わせることが、一般質問の説得力につながる。

第三は、一般質問を議員個人で完結させないことである。一般質問で提起された課題を委員会の所管事務調査につなげ、調査、提言、議決へと発展させている議会がある。一人の議員の問題提起を「議会の政策資源」として活用する考え方は、議会全体の政策形成力を高める上で重要である。

3. 釜石市議会へ取り入れたいこと

まず、議員就任時の研修に、一般質問の目的と基本的な組み立て方を学ぶ機会を設けることを提案したい。通告書の書き方や議会運営上のルールに加え、「自治体政策において議会は何を担うのか」「一般質問は何のために行うのか」「事実・分析・主張をどう組み立てるのか」を学ぶことで、就任直後から議会活動を考える共通の土台を持つことができる。

8.08.26

議会事務局

また、一般質問終了後、その中で提起された課題について、必要に応じて常任委員会の所管事務調査や政策提言につなげる仕組みも検討に値する。一般質問を「質問して終わり」にせず、議会として政策形成に活かす視点である。

議員は一人ひとり異なる考えを持つ「固有の政治家」であると同時に、「議会の一員」でもある。個々の議員の問題意識や気づきを尊重しながら、それを必要に応じて議会の議論へつなげることが、「議会があることによって、釜石市の政策や制度がより良くなる」議会づくりにつながると考える。